

2023 年度 学位記・修了証書授与式 祝辞

本日、卒業・修了を迎えられる皆さん、おめでとうございます。
学校法人を代表いたしまして、心からお祝いを申し上げます。

皆さんは、パンデミックにより 2020 年度の入学式が中止となったことに始まり、その後も通常とは異なる環境の下、様々な制約がある学生生活を送られました。しかしそんな中でも、友人や先輩、教職員など、沢山の皆さんに支えられながら、多くの努力を積み重ね困難を乗り越えて、本日、学位記、修了証書を授与されることに、敬意を表したいと思います。

また、長い間、皆さんを励まし温かく見守ってこられた、ご家族の皆様にとりましても、この卒業・修了は大きな区切りであり、今日の良き日を皆さんが立派に迎えられ、新しい領域へ踏み出されることを、さぞお喜びのことと改めてお祝い申し上げます。

歴史を遡ってみますと、明治時代が始まったばかりの 1881 年に、皆さんとほぼ同じ年齢の 21 名の若き学徒たちが、私財を投じ幾多の困難を乗り越えて東京理科大学の前身を創設しました。当時、日本は社会基盤が大きく変化を遂げる、まさに激動の時期でもありましたが、彼ら創設者たちは、そんな困難な環境においても、自分たちが学ぶ機会を与えられたことに感謝し、その恩義に報いるためにも、科学と技術の普及を通じて国の繁栄と発展を促進するのだという熱い志と高い理想を胸に持って、学校を立ち上げたのです。

開校時はわずか 20 人の学生が学ぶ小さな学校だった理科大は、それから 140 年以上の長きにわたる志の高い多くの関係者の不断の努力により、高い専門性と共に、科学的に思考する力、豊かに発想する力などを身に着け、“社会に貢献する実力”を有する人間を育てることを使命として、質の高い教育が代々受け継がれてきました。そして現在では、大学院生も含めて 19,000 人を超える学生が在籍する、我が国随一の理工系総合大学へと大きく成長し、あらゆる局面で日本を代表する大学の一つと目される現在の姿へと成長を遂げております。

卒業生は今日までに約 22 万人を数えるまでになり、ますます科学技術立国としての日本の成長を支え、国内外のあらゆる場所で人類社会の発展に貢献していく使命を痛感しているところです。本日からいよいよ皆さんもその伝統ある理科大のネットワークの一員に加わることを大いに歓迎したいと思います。

さらに我々は、これまでに得た高い評価や現状に満足することなく、7 年後の創立 150 周年、そしてさらにその先の 200 周年を見据えて、理科大の強みをより一層伸ばし、「世界の未来を拓く TUS(Tokyo University of Science)」となることを目指して、積極的な活動を始

めています。

この「世界の未来を拓く」という言葉には、気候変動や食糧、資源、自然エネルギーなど、世界が抱えている様々な課題の解決に向けた最先端の研究に取り組み、その過程を通じて、何事にも積極的に挑戦する高い意識を持つ人材を育成していくのだという理科大の決意が込められています。

今、日本では、デジタル・AI・グリーンなどの成長分野を強化するために様々な施策がとられており、これからますます自由闊達な創造力を発揮する理系人材が求められています。すでに本学で培った専門的な知識や素晴らしい経験がある皆さんには、あらゆる場面で主導的な役割を担う力があるのですから、是非自信をもって粘り強く課題に立ち向かい、存分に活躍していただきたいと願っています。

幕末から明治にかけて活躍し、「資本主義の父」と称される渋沢栄一の言葉に、こんな一節があります。

「長所はこれを発揮するに努力すれば、短所は自然に消滅する」。

つまり、どんな人にも長所と短所がありますが、私たちは些細な事柄にとらわれて、自分の弱点や短所を直そうと躍起になってしまうのではなく、自分の得意分野や長所にこそ注目し、それを社会において最大限に発揮していくにはどうしたら良いかという事を、常に優先して努力し続けていくことにより、結果として大きな成長を生むということです。

同様に、経営学者のピーター・ドラッカーも、生きる上で「自分の強みに集中すること」の大切さを繰り返し述べていますが、まずは他者と違う自分ならではの癖や強みが何であるか、しっかりと把握した上で、それをさらに伸ばし前に進んでいく方法を見つけることが、何より皆さんの大きな力となるでしょう。

我々理科大は、世界のより良い未来を拓くために、一層高い水準の教育や研究を行うことを目指し、さらなる高みに向かって今後も挑戦してまいります。これから卒業される皆さんには、このように成長し続ける理科大に対する、一番の応援団として理科大と一緒に成長してほしいと願っています。

最後に、皆さんが健康に留意され、これからの人生において心豊かで素晴らしい日々を過ごされることを祈念して、私のお祝いの言葉といたします。本日は誠におめでとうございます。

2024年3月18日
学校法人 東京理科大学
理事長 浜本 隆之